

## 要望書P9 (2)総合臨床実習の在り方 4) 総合臨床実習において学生が実施できる行為分類

なお、上記水準に基づき医療施設での総合臨床実習を行う学生に対しては、病院での医療の安全を確保する必要があることから、養成施設において学生の手技に加え、接遇・態度を含めた達成度を事前に確認しておくことが必要と考える。

養成施設における臨地実習前の実技試験等の実施状況について2019年9月臨床検査学教育協議会加盟87施設に対してアンケートを実施し、72.4%に当たる63施設から回答を得た。このうち本年臨地実習を実施した学年のない施設を除いた**61施設**の回答をまとめた。

### まとめ

- 本年度、臨地実習前の実技試験は回答のあった61施設のうち47.5%の29施設で何からの項目で実施されていた。さらに来年度には4施設で実施が計画されている。
- 実施項目では、患者接遇と標準12誘導心電図検査、ピペット操作及び希釈系列作成、血液塗抹標本作成または鏡検(白血球分類)、微生物学検査で塗抹標本作成またはグラム染色・判定、無菌操作または分離培養・釣菌、血液型判定の項目が半数以上の施設で実施されていた。
- 臨地実習前の実技試験の実施時間に関しては、20時間以下(概ね2.5日未満)の施設が約60%、21時間以上(概ね2.5日以上)の施設が約30%という割合であった。
- 一人の学生に対する評価者数は1人が約60%で、2人以上が約30%であった。また、評価者は教員が約80%であり、外部評価者による評価を実施している施設は約10%であった。

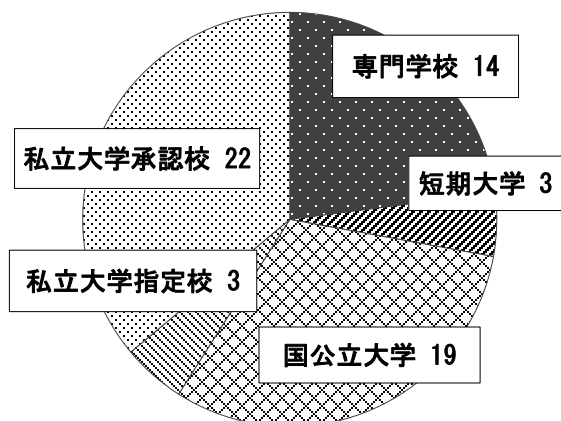
### 総括

- 臨地実習前実技試験を実施することの必要性については広く浸透してきており、実際に実施している施設、予定している施設が年々増加している。このため、1単位の臨地実習前実技試験については、実施を盛り込んでも、実施可能と判断する。
- 実技試験の項目については、日臨技アンケートによる要望項目である抗体スクリーニングは対象試料と使用試薬の関係で多くの施設では実施することは困難と判断する。一方、接遇、態度に関することは、採血及び心電図検査などの実技試験の時に、併せて実施することが可能である。
- アンケート結果以外の参考情報において、臨床組織細胞検査学における「細胞診標本作成(Pap染色)」「組織・細胞判定(鏡検)」、臨床血液検査学における「血球計数検査」、及び医療安全管理学にける「患者接遇と検体採取」は、実施率が低い項目であるが、学内実習で実施している内容であるので是非実施することが望ましいと考える。免疫検査学/輸血・移植検査学における「クロスマッチ」は対象試料準備の関係で多くの施設で実施することは困難と判断する。

### 今後の方向性

全養成校で臨地実習前実技試験を実施するためには、今回の報告に基づき実技試験の内容の統一ができたならば、早急に実技試験の評価基準・最低合格基準を設定する必要がある。実技試験内容の統一は2020年度中に行い、評価基準・最低合格基準の設定を2022年までに行いたいと考えている。また、実技試験の前にCBT試験で知識の確認をすることが本来必要であるが、現在協議会として毎年国家試験模擬試験問題400問を作成するシステムができているので、このシステムを活用することにより実施の可能性を検討したい。さらに次の段階として、臨地実習後に習得した実技に関する確認試験を行うことが重要と考えるが、臨床検査技師教育においては、検査室現場と学内実習で使用する試薬・装置などに非常に大きな差があるため、養成施設で実施することには困難があると考え。従って、今後実技試験・CBT試験が導入できたならば、日臨技と協議して実技に関する評価を含んだ臨地実習の評価基準・最低合格基準を作成し統一することが実務的であると考え。

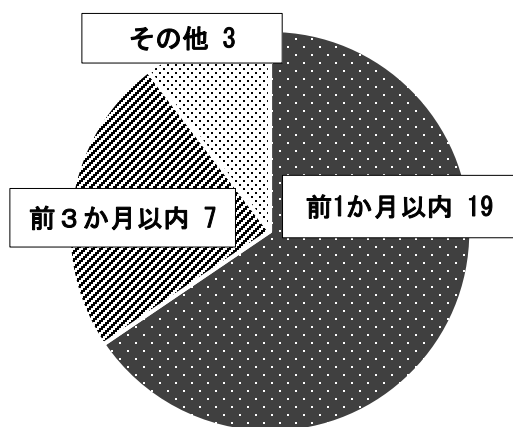
## 回答施設内訳 (61施設の実数)



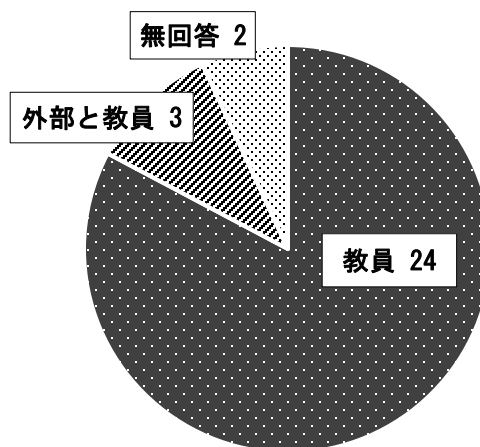
## 1. 臨地実習前総合実習を実施していますか



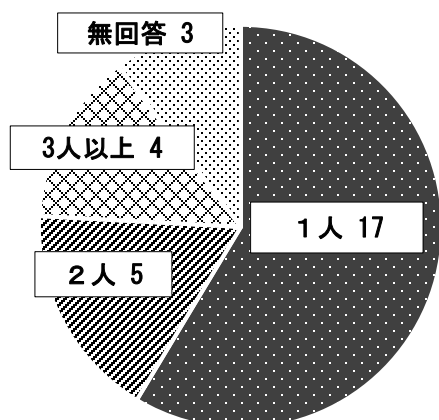
## 2. 実施時期はいつですか



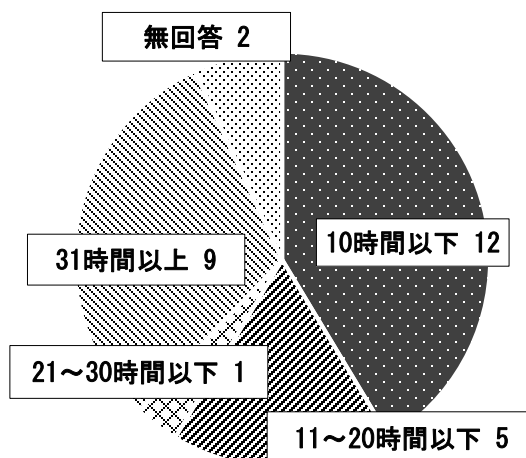
## 4. 評価者



## 5. 一人の学生に対する評価者人数



## 6. 臨地実習前の総合実習（説明・練習・試験・フィードバック）全体で使用している時間数



### 3. 実技試験の実施内容について

#### 3. 実技試験実施項目(複数回答を含む)【実施29施設】

教育内容	臨地実習前の実技試験項目	実施施設数	(%)	科目別分科会提案1)	日臨技アンケート2)
臨床一般検査学	尿定性検査	8	27.5	○	
	尿沈査検査(標本作成と判定)	13	44.8	○	○
臨床生体検査学	患者接遇と標準12誘導心電図検査	24	82.3	○	○(接遇・態度)
	患者接遇と肺機能検査	9	31.0	○	(接遇・態度)
臨床化学	ピペット操作及び希釈系列作成	23	79.3	○	
	吸光度測定	10	34.4	○	
	濃度計算等	11	37.9	○	
臨床組織細胞検査学	薄切標本作成または染色標本作成(HE染色)	13	44.8	次年度決定	
	細胞診標本作成(Pap染色)	4	13.8	次年度決定	
	組織・細胞判定(鏡検)	5	17.2	次年度決定	
臨床血液検査学	血球計数検査	3	10.3	○	
	血液塗抹標本作成または鏡検(白血球分類)	18	62.1	○	○
臨床微生物検査学	塗抹標本作成またはグラム染色・判定	16	55.2	○	
	無菌操作または分離培養・釣菌	19	65.5		
	同定検査・薬剤感受性検査	7	24.1	○	
免疫検査学/ 輸血・移植検査学	血液型判定	19	65.5	○	○
	クロスマッチ	5	17.2		
	抗体スクリーニング	3	10.3		○
医療安全管理学	患者接遇と静脈採血	11	37.9	○	(接遇・態度)
	患者接遇と検体採取	1	3.4	分科会なし	(接遇・態度)
(基本操作)	顕微鏡操作	8	27.5		

50%以上で実施

30%以上で実施

1) 【参考資料】○は2019年臨床検査学教育学会時に開催された科目別分科会で検討・報告された実技試験実施項目

2) 【参考資料】○は日臨技・協議会の要望書にある別添5p5にある「日臨技アンケート」に基づく実技試験実施項目と一致するもの、カッコ内は実技試験実施要求項目であるが、他の実技試験項目と同時実施のもの

# 臨地実習前の実技試験風景



採血



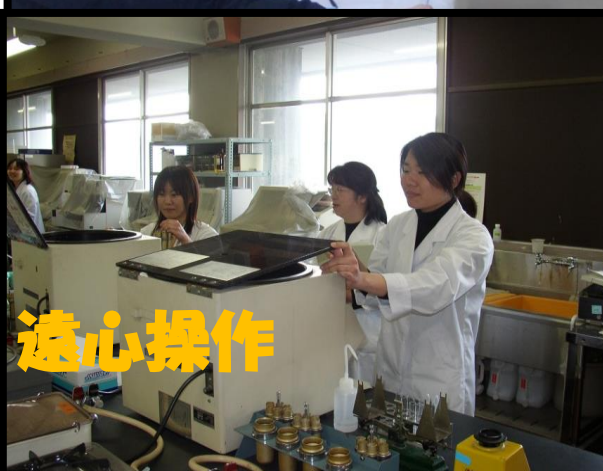
呼吸機能検査



心電図検査



鼻腔からの  
検体採取



遠心操作



サンプル希釈と比色法



ピペット検定



pH測定